



東京蜘蛛談話会 2023 年度採集観察会

1. 期 日： 第1回 2023年 5月21日（日） 第2回 2023年7月 9日（日）
第3回 2023年 10月15日（日） 第4回 2024年2月18日（日）
2. 場 所： 三輪の森（東京都町田市三輪の森ビジターセンター周辺）
3. 集 合： 集合 10:00
小田急小田原線鶴川駅北口
バス4番乗り場から、午前10時30分発「フェリシアこども短期大学」行きのバスで「妙福寺前」下車後、徒歩で移動します。
4. 世話人： 仲條竜太
TEL：070-5578-1416

東京蜘蛛談話会 2023 年度行事予定

本年度の合宿は実施いたしません。

例会は12月3日（日）東京環境工科専門学校での開催を予定しております。

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail：hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

京蜘蛛談話会の会費は、一般 4000 円、学生 1000 円です。

（しばらくの間会費を値下げしておりましたが、2022 年度より元の水準に戻し、一般 4000 円、学生 1000 円といたしました。）

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費・住所変更は：会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL：080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

東京蜘蛛談話会総会例会

2023年4月30日 東京環境工科専門学校にて
参加者一同



(1) イソウロウグモ
類2種の風変わりな採
餌行動

(2) 網構造と造網行
動から見た円網多様
化に関する仮説 (2)

新海 明

(5) みんなで調べる
セミ・クモプロジェク
ト構想

鈴木佑弥・向峯遼

(7) ミャンマーのク
モ類調査の現状

小野展嗣

(3) タイ王国クモ見
遊山の旅 2022

(4) いま改めて神奈
川県のクモ

谷川明男

(6) 蜘蛛とセミと？

田仲義弘



2022 年度決算

東京蜘蛛談話会

収入の部

2023 年 4 月 1 日

項 目	決算額(¥)	備 考
1.会費	784,100	
内訳 a.22 年度会費	395,100	欄外 1
b.23 年度以降前納会費	370,000	
c.21 年度以前未納分会費	19,000	
2.寄付	0	
3.雑収入	0	
4.別刷り代	21,739	120 号;欄外 2
5.利息	4	
6.クモ基本 60 売上	0	
収入合計	805,843	
7.繰越金		
(1)21 年度以前 前納会費	288,600	
内訳 a.22 年度分	234,900	
b.23 年度分	34,700	
c.24 年度分	13,000	
d.25 年度分	6,000	
(2)特別会計 (プール金)	649,033	
繰越金合計	937,633	
合計	1,743,476	

支出の部

項 目	決算額(¥)	備 考
1.会誌作成	509,920	121,122 号
2.会誌発送	34,272	
3.別刷り作成・発送	15,686	121 号
4.談話会通信	82,238	164,165,166 号
5.事務局等通信費	33,825	
6.事務用品等	0	
8.予備費	0	
支出合計	675,941	
9.繰越金		
(1)23 年度以降の前納会費	423,700	
内訳 a.23 年度分	344,700	
b.24 年度分	51,000	
c.25 年度分	24,000	
d.26 年度分	4,000	
(2)特別会計 (プール金)	643,835	
繰越金合計	1,067,535	
合計	1,743,476	

繰越金の預け先：郵便貯金 (普通)	¥199,421
振替口座	¥843,866
現金	¥24,248
合計	¥1,067,535

欄外 1：22 年度会費は、前納分 234,900 円とあわせて 630,000 円受領しました。
 欄外 2：1 件(15,686 円)著者からの入金が入金が年度内に間に合わず、次年度の収入に回ります。

以上、報告いたします。2023 年 4 月 1 日 会計 須黒達巳 印
 適切に会計処理されています。2023 年 4 月 21 日 会計監査 興石紗葉子 印

2023 年度予算

東京蜘蛛談話会
2023 年 4 月 30 日

収入の部

項 目	金 額(¥)	備 考
1. 23 年度会費	857,000	4,000 円*201 人+1,000 円*53 人
内訳 a.前納分	344,700	
b.23 年度納入予定分	512,300	
2. 寄付	0	
3. 雑収入	0	
4. 別刷り代	65,686	欄外 1
5. 利息	5	
収入合計	922,691	
6. 繰越金		
(1)23 年度以降の前納会費	79,000	
内訳 a.24 年度分	51,000	
b.25 年度分	24,000	
c.26 年度分	4,000	
(2)特別会計 (プール金)	643,835	
繰越金合計	722,835	
合計	1,645,526	

支出の部

項 目	金 額(¥)	備 考
1. 会誌作成	800,000	400,000 円×2 回 (123,124 号)
2. 会誌発送	35,000	
3. 別刷り作成・発送	50,000	
4. 談話会通信	90,000	30,000 円×3 回(167,168,169 号)
5. 事務費・通信費	45,000	欄外 2
6. 事務用品等	10,000	
7. 総会・例会	20,000	10,000 円×2 回
9. 予備費	10,000	
支出合計	1,060,000	
10. 繰越金		
(1)21 年度以降の前納会費	79,000	
内訳 a.24 年度分	51,000	
b.25 年度分	24,000	
c.26 年度分	4,000	
(2)特別会計 (プール金)	506,526	
繰越金合計	585,526	
合計	1,645,526	

欄外 1：前年度に著者から未徴収の 15,686 円を含みます。

欄外 2：事務局・会計・編集各 5,000 円，通信 6,500 円，観察会・合宿事前調査費各 10,000 円，
通信費・振込手数料等 3,500 円

2022 年度会員動向

2022 年 4 月 1 日時点の会員数 261 名

入会 8 名，退会 15 名

2023 年 4 月 1 日現在の会員数 254 名（一般 201 名，学生 53 名）

多摩だより (7)高幡不動のズグロオニグモ

新海 明

東京の西郊多摩周辺で自動車に乗る方なら高幡不動尊の名前を知らない方はまずいないだろう。車の安全祈願のお不動様として名を馳せている場所だ。都心からは京王線に乗って40分ほど、最寄り駅はズバリ高幡不動だ。私がおこへ何度も通ったのは1960年代後半だった。たぶん初めて訪れたのは中学校の生物部クモ班!!(…なるものが存在した)の採集会だったと思う。東京の近郊に住まう部員は各々待ち合わせ場所の高幡不動の駅頭に集合となっていた。私たち兄弟は国分寺の家からバスに乗って京王線の府中駅に行き、ここから高幡不動へと向かった。少し早めに到着したので駅の周りでクモ観察となった。兄が駅構内の鉄柵の間にクモの巣を見つけた。昼間なので網主は不在だが円網の周囲にいるはずだった。私ですらその程度の経験はすでに持ち合わせていた。よく見ると上方の柵の隅にその主はいた。しかし私の想像とは異なっていた。なぜなら、クモはトンネル状の糸で作られた袋の中に住まわっていたからである。私が指先で綿のトンネルをつつくと、主がポロリと外へこぼれた。用意した管ピンに捕らえてよく見ると、なんとも特徴的な斑紋を有していた。兄に見せると「ズグロオニグモだ」という。そして、東京では「今のところはここにしかいない」という。

そのうちにみなぎ集合したので高幡不動尊へと向かった。その裏山へとたどる道沿いから多摩動物公園へと続く山道には確かにズグロオニグモはいなかった。私はこれ以降も高幡不動駅のほかでズグロを見ることはめったになかった。1970年ころに多足類の研究者の石井清さんの栃木県の壬生のお宅を訪れた際に、そのマンションの外壁で見かけた記憶があるくらいだ。足しげく通った房総半島の清澄山でも山道にはい入る前の橋の欄干ではよく見かけたが、林道に入るとまったく見えなくなるクモだった。ズグロは「やはり人工物が好きなんだなあ」と思ったものだ。

2010年ころに谷川さんと「クモの巣図鑑」を作っていた時にイエオニグモの写真を撮るのにかなり困ったことがあった。拙宅周辺の駅舎や房総の久留里線沿線の駅舎はズグロだらけになっていたのだ。その顛末はすでに私(通信131号)や谷川さん(通信160号)も述べたことがある。いずれも、東京あるいは関東周辺ではイエオニの住んでいた場所がズグロにとって代わっているのではないかというものだ。どうやら、かつて駅舎の蛍光灯の周りを占拠していたイエオニグモはズグロに置き換わりつつある。これはクモの分布の栄枯盛衰を示す好例になるかもしれない。この詳細は未だに不明だが、ある時点でのクモの生息状況を記録しておくことは、とても大切なことと思う。日本のクモ相が解明されたなどというつもりは毛頭ないが、私は次に続く世代のクモ屋にはぜひとも特定種の生息の動態の推移に関して調べてもらいたいと望んでいる。谷川さんは「ク

モ相は一定の静的なものではなく、常に変動を続けている動的なもの」だと遊絲 48 号で述べていたが、同感である。さらに各地域のクモ相の変化を比較できる段階にまでその調査が進んできたと強く感じており、また今後の調査の進展が楽しみである。



高幡不動尊の遠景

(お詫びと訂正)

私はかつて「50年目の高幡不動のクモ」を KISHIDAIA に報告したことがあった（新海 2018 : K113）この中で「思い起こせば、かつて高幡不動の山道沿いの崖地にはキシノウエトタテグモが生息していたはずだ。なのに、50年前のリストには記録されていなかった。これは地中性のクモを発見する力がまだなかったころのせいかもしれない。1967年3月からクモの採集を開始したばかりなのだ。キシノウエトタテグモがなぜ記録されていなかったのかは、残念ながら記憶の彼方のことで真相は不明である」と記述していた。

この記録を読んだ兄から貴重な情報もたらされたのだ。当時は「高幡不動の崖地にはキシノウエトタテグモは生息していなかった」というものだ。「カネコトタテグモは生息していたが・・・」と付け加えてもくれた。

そういえば、今回見つけたキシノウエトタテグモの住居は境内のツツジやアジサイの植え込みだった。これは植栽の時に紛れ込んだものかもしれない。貴重な情報をお寄せいただいた新海栄一氏に感謝を申し上げる。

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4月末、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

鈴木佑弥 〒770-8070 徳島市八万町向寺山（番地なし）徳島県立博物館

E-mail : sasaganiya1206@gmail.com

キシダイアの原稿締め切りは、6月末、12月末を目安とし、予算枠内のページ数まで先着順といたします。